

ごあいさつ

教育支援センター長 太田 淳

2007年に始まった学生自主企画研究は今年で12回目を迎えました。

学生の皆さんが自分たちで見出した問題意識に基づいてグループで実施する企画研究を提案し、それに対して大学が研究費を補助しています。今年度は、学部1年生から大学院生まで、12グループの応募があり、書類・プレゼンテーションによる選考を経て10グループが採択されました。研究は各グループで自主的に行われますが、11月の中間発表で教職員や他の学生からの意見・助言を得て、1月の最終発表・報告書作成へと進みます。

研究を進めていくためには、大学の授業だけでは得られない様々な知見を収集し、それらをもとに熟考し、発表や報告として表現することが必要です。また、グループで実施する研究なので、メンバーそれぞれが主体的にグループ内で協働していくことが求められます。これらは、昨今話題になっている「学力の三要素」そのものであり、この事業が今後必要となってくる能力を身に付けてもらうために役立っていることを示しています。

一方、本企画研究は大学内に留まるものではありません。地域連携を主眼とする2つの指定課題「名古屋市営地下鉄企画」「常滑市企画」が設けられています。残念ながら、今年度はこれらの課題への応募がありませんでしたが、地域社会への取材だけではなく貢献を行う研究も数多くありました。また、例年と同様に、いくつかのグループは学部・学科の枠を超えた構成になっていました。異なる背景・知識を持つ学生たちが集まって一つの目標に向かって進むことは、普段の授業では得られない経験となることでしょう。これらの2点は本学が次期中期目標として掲げている「地域貢献」「学部間連携」にかなうものでもあります。

本事業の実施にご支援、ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。久富木原玲学長、丸山真司・百瀬由美子両副学長、各センター長、学部長を始めとする教員の皆様には、選考から中間発表、最終審査に至るまで、研究内容に対する厳正な評価と貴重なご助言をいただきました。大府市歴史民俗資料館の大河内館長には最終発表会にいらっしやり、的確なご意見をいただきました。社会福祉学科松宮朝准教授には、スキルアップ講座を実施していただきました。堀尾良弘副センター長は、発表会での司会進行をお引き受けくださいました。本事業主担当の阿喰悟学務課長、ならびに、木下圭一学務部長、杉浦秀一係長、田島ほな実主事、小久保多香子様を始めとする学務課事務職員の皆様には、事業全体を支えていただきました。愛知県立大学後援会には、予算的な援助をいただきました。様々な形で研究を支えてくださったグループの指導教員の皆様、また、地域の皆様をはじめ研究に協力してくださったすべての方々にも御礼申し上げます。

そして、この事業は参加してくださる学生の皆様あってのものです。今年も積極的に応募し、異議深い研究を実施してくださった学生の皆様に最大限の賛辞をお贈りします。

平成30年度事業報告（概要）

1. 事業計画

(1) 内容

学生の自主性、創造性を刺激することにより、勉学意欲の向上を図るため、学生自主企画による研究プロジェクトを公募し、採択されたものに対して、研究資金を助成する。その研究成果の発表会を開催し、グループの研究・調査成果を学内で共有する。

(2) 申請者

愛知県立大学生、同大学院生で構成された研究グループは、代表者を含む正規構成員(3名～10名)と協力者(0名～人数制限なし)とする。同一人が、正規構成員として複数グループに属することはできない。本学専任教員1名の推薦が必要。推薦教員はその研究グループのアドバイザーに就任する。

(3) 研究テーマ

1. 自由テーマ。ただし、授業での研究、個人の卒論・卒研・修論・博論と同一の研究、および、過去に採択された研究課題と同一のものは不可。
2. 名古屋市交通局連携テーマ、常滑市役所連携テーマ
「学生力を活かした市バス・地下鉄魅力創造プロジェクト」との連携テーマ
「常滑市活性化」に関するテーマ

(4) 助成金額

最大 250 千円/件

(5) 助成件数

最大 10 件

(6) 採択方法

第一次審査 提出書類による審査。

第二次審査 第一次審査合格グループに対して公開ヒアリングを行い、教育支援センター運営会議で決定。

(7) 研究期間

平成30年6月1日から平成31年1月22日まで

(8) 研究成果公開

研究終了後、研究発表会を開催する。

2. スケジュール

4月 18日	<p>学生自主企画説明会(第1回)</p> <p>12:10～12:30 H204 教室にて説明会を開催。その後、19日,24日,26日,27日の合計5回開催</p> <p>募集期間：4月18日(水)～5月14日(月)</p>
5月 15日	<p>第一次審査</p> <p>応募：12件（うち、自由研究テーマ12件）</p> <p>教育支援センターにおいて、応募12件に対して第1次審査を実施。</p> <p>その結果、12件すべてを第二次審査の対象とすることを決定。</p> <p>（5月17日に審査結果を発表）</p>
5月 23日	<p>第二次審査（公開ヒアリング）</p> <p>12:30～14:50 S101 教室にて公開ヒアリングを実施。参加：12チーム</p> <p>第二次審査における役職者の審査結果をもとに、教育支援センターにて最終選考を実施。研究テーマ10件を採択。（5月24日学長報告）</p>
6月 5日	<p>研究助成金取扱説明会</p> <p>12:10～12:40 H310 教室にて説明会を開催。</p>
6月 27日	<p>学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座</p> <p>12:50～14:20 B107 教室にて「社会調査の実践的スキル」（松宮 朝准教授（社会福祉学科））講座を開催。</p>
10月31日	<p>中間発表会</p> <p>13:00～15:20 S101 教室にて、中間発表会を開催。</p>
1月 24日	<p>研究発表会</p> <p>12:30～16:00 H202 教室にて、研究発表会を開催</p> <p>終了後、交流会・表彰式 ～16:00</p>
1月 26日	<p>実施報告書提出</p>

3. 経過の詳細

- 本事業も12年目となり、本事業が学生および教員に浸透した結果、多数の応募件数があった。また、募集開始から研究発表会に到るまで、順調に進めることができた。
- 応募要領の「審査基準」は、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」であること、②実行可能性、③プレゼンテーションとし、この基準に従い、第一次審査、第二次審査(公開ヒアリング)を実施した。
- 助成金額については、すべての研究テーマに対して上限25万円とし、助成を10グループとした。

□過去3年間の応募件数、採択件数の推移は以下の通りである。

年度	応募件数	第一次審査合格件数	採択件数
平成28年度	22件	17件	12件
平成29年度	14件	14件	10件
平成30年度	12件	12件	10件

□第一次審査は書類選考とし、応募12件中12件を合格とした。審査は教育支援センター運営会議構成員が、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②実行可能性の2項目について採点した。

なお、地域連携テーマとしては、今回は応募が無かった。

□第二次審査は公開ヒアリングとし、審査は募集要項に明記の3基準を基に①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②「自主的な問題意識」、③研究計画、④予算の使い方と研究計画との関連、⑤プレゼンテーション、の5基準を各4点で採点、合計20点満点で審査員（副学長、学部長、センター長）が採点した。採点結果に基づき10件の採択を決定した。

□学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座として、採択されたグループの構成員を対象に、松宮先生(社会福祉学科 准教授)の「社会調査入門」を開催した。

□中間発表会は、全てのグループからの発表があり、参加者から活発に質問が寄せられた。また、従来どおりコメント用紙を用意し、会場の参加者に各発表グループ宛にコメントを書いてもらい、後日各グループに渡した。

□研究発表会は、全てのグループからの発表があり、いずれのグループもしっかり準備されたプレゼンテーションで、質疑も活発に行われた。

□採点は「研究内容」、「プレゼンテーション」について、それぞれ10点、5点の合計15点満点とした。採点資格は、教職員・学生とも5グループ以上の発表を聞いた場合とした。なお、副学長、各学部長、各センター長の配点は2倍（30点満点）で計算し、得票数（平均得点）により金賞と銀賞を選出した。

賞	代表者	研究テーマ
金賞	石上 剛 (社会福祉学科)	1954年の厚生年金保険法改正における定額部分の水準設定
銀賞	清水 菜名子 (国語国文学科)	中部地方の言語形成における地理的要因について ー木曾川流域を中心としたことばの広がりー

□研究発表会終了後、短い時間ではあるが、お茶とお菓子を用意して懇親会を行った（後援会からの支援を得た）。その間に金賞、銀賞を決定して発表を行い、太田教育支援センター長から賞状および副賞の図書カード（金賞2万円・銀賞1万円）が授与された。